

坂出市の地域資源と地域課題に関する調査分析

INVESTIGATION INTO REGIONAL RESOURCES AND PROBLEMS OF SAKAIDE CITY

.....

川北 健雄 芸術工学部環境デザイン学科 教授
長濱 伸貴 芸術工学部環境デザイン学科 准教授
宮本 万理子 芸術工学部環境デザイン学科 助教
中村 卓 芸術工学部環境デザイン学科 助教

Takeo KAWAKITA Department of Environmental Design, School of Arts and Design, Professor
Nobutaka NAGAHAMA Department of Environmental Design, School of Arts and Design, Associate Professor
Mariko MIYAMOTO Department of Environmental Design, School of Arts and Design, Assistant Professor
Suguru NAKAMURA Department of Environmental Design, School of Arts and Design, Assistant Professor

.....

要旨

昨年度の関連研究では、国際ワークショップの開催候補地である坂出市の将来構想の策定とまちづくり戦略の立案に役立てるための基礎調査を行った。その際、地勢的な特質から、坂出市全域を4つのゾーン（島嶼ゾーン、臨海ゾーン、中核ゾーン、抱護ゾーン）に区分し、ゾーンごとの様々な課題と多様な地域資源の分布に関する把握整理を行った。その成果をふまえて、今年度はゾーンごとに下に示す特定のテーマを設定して調査を行った。

1) 島嶼ゾーン

・未調査であった櫃石島・岩黒島の基本データ整理と現地確認

2) 臨海ゾーン

・中心市街地に隣接する西運河周辺の主な景観要素の把握

3) 中核ゾーン

・塩田開発前（江戸末期）の海岸線の痕跡確認

・中心部の空き店舗調査

・中心部の空地調査

・中心部における新築動向調査

4) 抱護ゾーン

・農地の動向に関する基礎調査

・王越地区内集落の現況調査

以上の調査を通して、それぞれのゾーンにおける地域資源と地域課題を、より具体的な形で把握することができた。

Summary

In the preliminary research of last year, basic characteristics of four geographically defined zones in Sakaide city were investigated through field surveys. Following the result of the research, particular issues in each zone are further investigated this year.

1) Islands Zone

- Identification of distinctive features of Hitsuishu Island and Iwakuro Island, which were not surveyed last year.

2) Waterfront Zone

- Identification of distinctive landscape elements (buildings, greens, etc.) around Nishi-unga, which is the nearest harbor to the city center.

3) Central Zone

- Investigation of the remaining stone walls at the old shoreline before the salt farm development in 1820s.

- Situation of the shops at the central shopping streets.

- Distribution of the vacant lots in the central area.

- Disposition of new buildings in the central area.

4) Farmlands and Mountains Zone

- General conditions of the farmlands.

- Identification of the features of Ogoshi village.

1) 現地調査の概要

関連研究¹⁾で昨年度行った基礎調査の結果をもとに、今年度の主調査は2015年8月6日～8月8日に「坂出市海の家」を活動拠点とし、ゾーンごとに特定のテーマを定めて実施した²⁾。また、2016年2月21日と3月12日～13日に補足調査を行った³⁾。

2) 島嶼ゾーンの調査結果

櫃石島、岩黒島の埋立や土地利用の変遷を整理すると共に、実態を現地で確認した(図1、写真1、写真2)。



図1 櫃石島の変遷の様子(国土地理院空中写真を使用)



写真1 櫃石島埋立地と瀬戸大橋⁴⁾ 写真2 櫃石集落俯瞰⁴⁾

3) 臨海ゾーンの調査結果

港湾部のうち、中心市街地に最も近い西運河周辺における主な建築物・緑地等の分布を調べ、その景観特性を把握した(図2)。

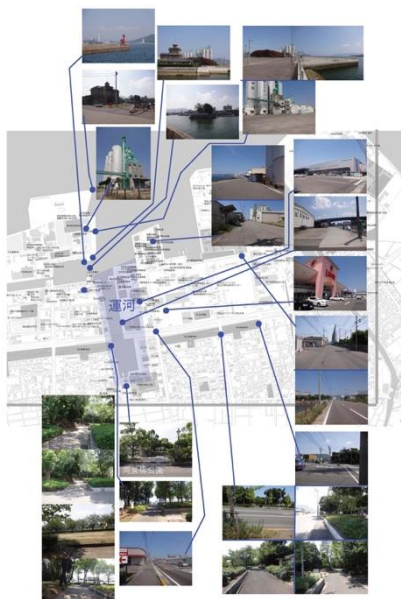


図2 西運河周辺の主な建築物・緑地等の分布⁵⁾

4) 中核ゾーンの調査結果

4-1) 塩田開発前(江戸末期)の海岸線の痕跡確認

現在の坂出市中心市街地の北側部分は、文政7年～12年(1824年～1829年)の間に久米通賢が行った塩田開発によって陸地化された区域である(図3)。現在も、それ以前の海岸線の跡を示す石積みが各所に見られるため、本調査では、その現存状況を確認した。



図3 文政年間初期の地図と現在の航空写真の合成図⁶⁾

その結果、現在の白金町、寿町、本町、元町にかけて、多くの石積みが断続的に残存することが確認された。道路と交差する部分では、石積みがL字型に折れ曲がる部分も存在した(図4)。

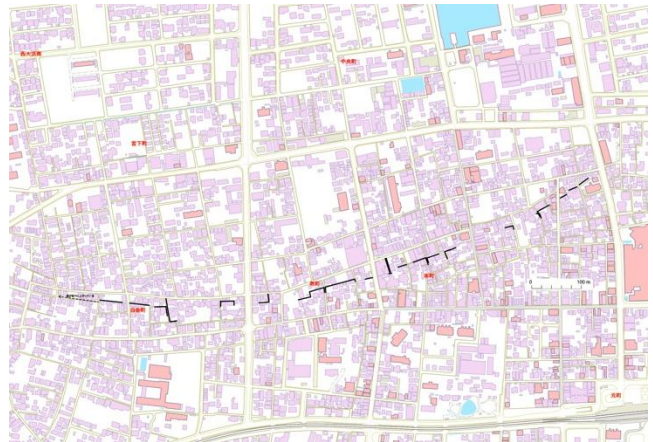


図4 残存が確認された石積みの位置

4-2) 中心部商店街店舗の営業状況

坂出市中心部の東西に伸びるアーケードを有する本町中央商店街、本通り商店街、元町名店街、これとT字型に接続して北に伸びるサンロード大黒通り商店街、サンロード港町商店街、その少し東側でT字型に接続して南に伸びる元町栄筋商店街について、店舗の営業状況を調査した。図5にその結果を示している。ここでは、営業している店舗が黒色、それら以外の店舗が白色で示されている。

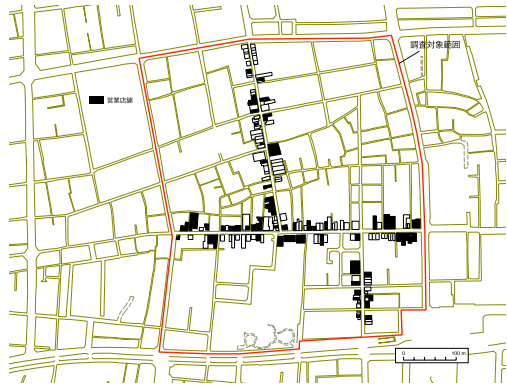


図5 商店街店舗の営業状況

営業状況を判断することが困難であった8軒を除いた153軒の店舗のうち、営業していたのは約4割にあたる63軒であった。

4-3) 中心部の空地の分布状況

現在、中心部には多くの空地が見られる。それらの分布状況を、駐車場として利用されているもの(赤)と未利用なもの(青)に分けて示したのが図6である。

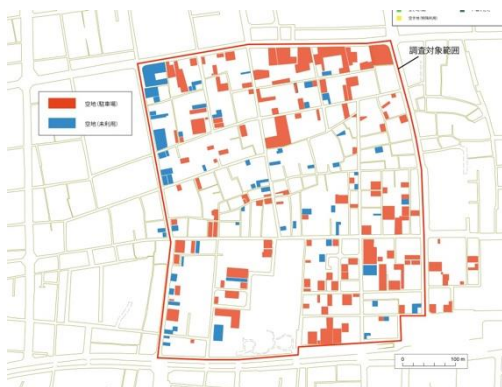


図6 空地の分布状況

4-4) 中心部における新築動向

また、建築基準法上の接道要件を満たす土地では、徐々に建物の更新が進んでいる。戸建て住宅、低層アパートの

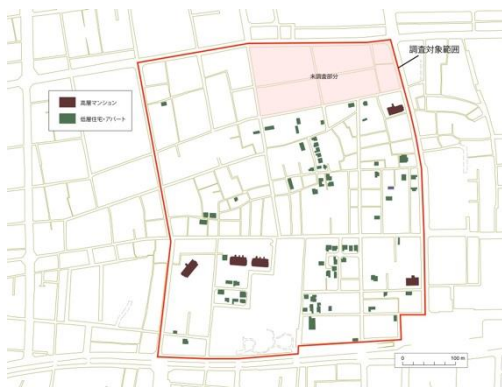


図7 新しい建物の分布状況

他、何棟かの高層マンションも建設されている。目視観察により概ね10年以内に建設されたと判断された建物の分布を図7に示している。

5) 抱護ゾーン

5-1) 農地の動向に関する基礎調査

坂出市では2004年に線引き廃止が行われ、農用地区域以外では、それ以前に市街化調整区域であった土地への住宅等の建築を行うことが容易となった。図8は、2004年から2014年にかけて開発許可が行われた箇所を示しており、幹線道路に近いところを中心に、農地の宅地化が進行している様子を確認できる。

また、かつてみかん畑であった斜面地には多くの耕作放棄地が存在し、森林・原野化して農地への復元利用が困難な状態となっている。一方、平地部における耕作放棄地は、草刈等の整備を行うことで復元できるものが多く、そ

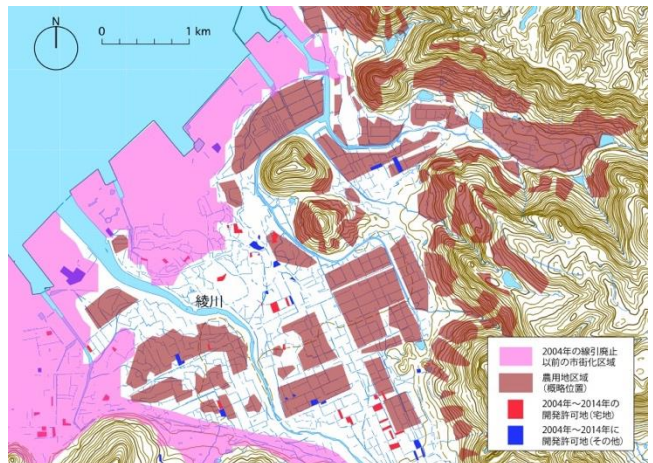


図8 綾川と周辺農地の開発動向分析図

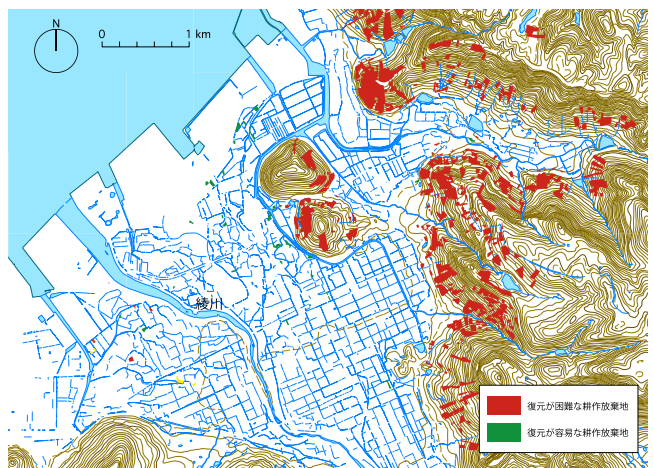


図9 綾川と周辺の耕作放棄地分布図

の数も多くはない。図9にそれらの分布状況を示している。

5-2) 王越地区内集落の現況調査

王越地区は坂出市の北東端に位置し、東側の木沢と西側の乃生の2つの集落で形成されている。北側が瀬戸内海に面するが、他の三方を山に取り囲まれているため、坂出市の中でも、地形的に独立性の高い区域となっている。家屋の多くは山裾あるいは海岸近くに分布し、それらに比較的小規模な農地が分布している。両集落の海岸部には塩田跡が存在し、その大部分が未利用地となっている。この地区では斜面地だけでなく平地部にも一定の広さの耕作放棄地が広がっている(図10)。

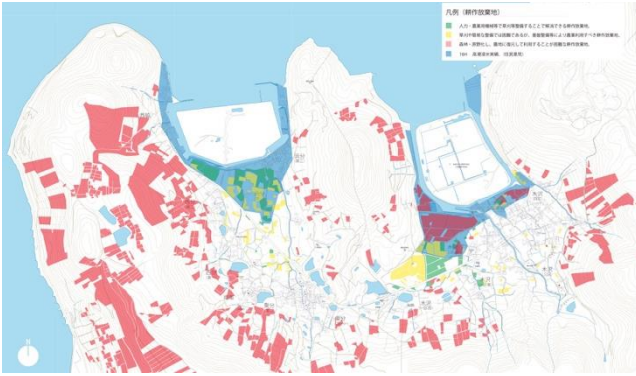


図10 王越地区の耕作放棄地分布図⁷⁾



写真3 みかん小屋(手前二棟)とベーハ小屋(背後)⁸⁾



写真4 みかん小屋内部⁹⁾

写真5 ベーハ小屋内部⁸⁾

両集落内には、換気口を有する屋根形状が特徴的なみか

ん小屋とベーハ小屋(煙草乾燥小屋)がいくつか存在し、独特な景観をつくり出している。

6) まとめ

以上の通り、今年度は、島嶼ゾーン、臨海ゾーン、中核ゾーン、抱護ゾーンのそれぞれについて、各ゾーンを特徴づける特定の要素に焦点を当てて調査を行った。その結果、坂出市特有の地域資源と解決すべき課題の双方について、多くの事柄を明らかにすることができた。今後、これらの知見をうまく生かしたまちづくりの方法について、さらに考察を進めていきたい。

注・参考文献

- 1) 川北健雄・長濱伸貴・宮本万理子・中村卓・長野真紀・岡村光浩・小菅璃香、「環境デザインの国際ワークショップ開催に向けた坂出市に関する基礎調査」、神戸芸術工科大学紀要『芸術工学』、2015
- 2) この現地調査は大学院の「環境デザインプログラム」・学部の「環境デザインプロジェクト」の演習に位置づけ、坂出市の協力を得て実施した。
- 3) 2月21日は瀬戸内国際芸術祭の「金時人参プロジェクト」ワークショップ、3月13日は「坂出アートプロジェクト」の視察を兼ねて実施した。
- 4) 写真1、写真2撮影：長濱伸貴
- 5) 図2制作：片木健好
- 6) 三木壺舟「文政年間初期坂出村復原圖」1968とGoogleEarthの航空写真を合成。
- 7) 図10制作：熊澤花絵・池村友希・孫思東・長野真紀
- 8) 写真3、写真5撮影：長野真紀
- 9) 写真4撮影：長野真紀・熊澤花絵